

# 提案趣旨説明書

〈作品タイトル〉

**エコサイクルビレッジ**  
 - ヒト・モノ・コトの循環(サイクル) がうみだすコミュニティ賑わい拠点

〈提案の趣旨〉

### 【三河安城の課題】

三河安城は、“つかう meet”などの様々な市民活動も活発であると共に、最先端技術を牽引する多くの企業がある、安城市を農業先進地域として形づくってきた明治用水が縦断している、新しいアリーナが将来的につくられる等、ポテンシャルの高い場所となっている。しかし、現在これらのポテンシャルを活かしきれておらず、特に人の滞留する空間や商業のにぎわいに欠け、駅前が閑散としている。

### 【矢総公園エリアのデザイン指針】

今後、新アリーナ建設によるスポーツを中心としたにぎわい創出が予想されるが、二つの鉄道に挟まれたこの三角地帯は車でのアクセスが不便である。しかしこのデメリットを逆に活かし、「歩行者・自転車」に優しいヒューマンスケールの快適なまちづくりの特別区として、このエリアを一体的に整備していくことで、地域活性の核として求心力を生むことができると考える。矢総公園における本提案は、この三角地帯“アントレ”(ANJO TREKANT: TREKANTはデンマーク語で三角形の意)の将来構想マスタープランに準じると共に、三河安城の様々なポテンシャルを活かしつつ、にぎわいやコミュニティづくりを牽引していく起爆剤的な空間として整備する。場所性として明治用水沿いの自転車道の結節点であるため、コンセプトを“エコサイクルビレッジ”とし、アントレと広域との回遊性を高めると共に、サイクルカルチャー(循環型社会・文化)の発信・波及の起点となる。“エコサイクルビレッジ”は、多様なイベントやアクティビティを誘発する仕組みやプラットフォームを提供し、ヒト・モノ・コトが循環し交わり、まちに賑わいを創出していく。そして、下記4つのサイクルを原動力とし、安城市が進めるエコサイクルシティ構想や健康都市、ウェルネスを実現する拠点となる。



サイクルネットワークへの人の循環をうみだし、明治用水や田園風景を身近にすることで街の歴史やアイデンティティーを強め、この場への愛着を持ったファンを増やします。



多様なイベントを通してヒト・モノ・コトの循環を促し、個が交わることで大きなコミュニティが生まれ育つプラットフォームとなります。

根羽村で育った木を利用したサイトファニチャーは、自由に動かし組み合わせることを可能とし、場を自由に使いこなすきっかけをつくり、ヒトの循環を促します。

IT 技術を駆使することでまちを自由に使いこなすツールやまちを安全で心地よい場にするインフラを整備します。